

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1090100668 | | |
| 法人名 | 株式会社 フロンティア | | |
| 事業所名 | グループホーム ウェルスタイル朝倉 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市朝倉町894-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年3月6日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/10/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月30日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に寄り添い自然体で過ごしていただき毎日楽しく過ごして頂ける様の笑顔を決やさない。お1人おひとりの個性を尊重しその人に合ったサービスを提供出来るように努めています。中庭には菜園があり、利用者様と季節のはたや野菜などを作り利用者様、職員と一緒に調理をして食べ一緒に生活している実感していただいております。コロナウイルス感染拡大に伴い自粛していた行事なども徐々に実施することが出来るようになり以前の生活に戻りつつあります。特に外出行事は今後は以前よりも充実させていこうと考えております。利用者様の安全と職員の負担軽減を考慮し介護ロボット(眠り主スキャン)を導入致しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で運営推進会議の開催がかなわない中、事前に家族等に意見書を郵送し、意見や要望を集約して、書面会議の開催に繋げている。更にその結果を議事録としてフィードバックし、非開催の弊害を補っている。また、毎月、職員が全員参加の全体会議を開催し、利用者の介護等についての意見交換や共有事項の確認とともに、参加職員が各々分担しての身体拘束廃止・虐待・感染の各委員会ですらに詳しい実践に向けての検討会を行っている。施設長は、職員の今の現状を把握するために年2回の個別面談を行い、モチベーションの向上のための目標の明確化と可視化に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念を元に季節が感じられる空間で「人と心を大切に作る」を唱和するだけでなく理念を意識したケアを実践している | 理念は、法人の理念を開設当初から活用している。今後は「ウェルスタイル朝倉」としての理念を作成する予定である。 | 職員個々が理念の言葉の意味の理解と共有が出来るように、グループホームの理念作成と共に検討することを期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で外部イベントへの参加は禁止しているが散歩の道中での挨拶を交わす交流は継続している。 | コロナ禍前は、サロン・カルチャー・ボランティアの方にも施設を利用して頂いていたが、現在は行っていない。5月より感染症法上の位置づけが変わり、以前以上に活動範囲の拡大と地域との繋がりを強化したいと考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コミュニティールームの利用案内表示、定期的な活動の参加案内を告知している。数件の問い合わせがあるがコロナで延期になっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍で対面による運営推進会議は開催出来ていないが書面にて開催し意見を聞き取りサービス向上に活かしている。 | 事前に書面で意見を郵送して、家族からの意見を確認し、会議の結果を議事録にして郵送し、フィードバックしている。コロナ禍により、地域の方や民生委員などの参加はされていない。 | 会議のあり方を構築するとともに、テーマや会議内容に基づいて、参加メンバーの再考を検討することを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | メール等のやり取りの他電話や訪問し直接質問し適時アドバイスを頂いている。 | 市担当者とは、管理者は電話で運営に関することや疑問点の相談を行い、積極的な関わり方を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会や毎月の定例会議において身体拘束について職員の理解を共有して3カ月に1回勉強会を行っている。 | 利用者には「自由に過ごしてもらおう」と考え、身体拘束の指針に基づいて実践している。日常業務の中でベットの設置など、その場で注意しあい「拘束しないケア」実現に繋げている。また、毎月の全体会議後の身体拘束委員会では事例検討を行い、意識の共有を図っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止委員会を設置し法人全体で取り組んでおり全職員に虐待防止に対し意識を持っていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 併設している小多機の利用者様が成年後見制度を利用しているので実践の中で学ぶ機会がある | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用開始前にご自宅や病院に訪問し利用契約書や重要事項説明書の十分な説明等を行っている。利用開始にあたり不安、疑問等をお聞きして理解して頂いている。可能であれば本人にも見学に来ていただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍により運営推進会議が開催できないため書面にて要望、意見を聞いている。面会時なのでも意見を聞いている。 | コロナ禍前は、家族が食事介助に来てくださったりと関わりが多かったが、コロナ禍では、家族の面会頻度が少ないなか、ケアに係る話し合いは行われるが、運営に関する意見としては頂けていない。 | 施設側として、具体的に運営に関するテーマ等を投げかけて、家族と意見交換の出来る場面づくりを検討することを期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回全体会議を開催し職員に意見や要望、提案を「聞けるようにアンケートを実践し会議に参加できない職員の意見取り入れられるようにしている。 | 全体会議は毎月1回行っているが、全員は参加できないので、参加できない職員から事前にテーマに基づいたアンケートをとり、会議で検討されている。「下駄箱やロッカーの数が不足している」等、解決に向けての具体的な対策が実現している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は定期的に面談の機会を作り働きやすい職場にするため意見等を聞いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人全体でWEB研修を実施しており事業所全体で必要と思われる研修も行っている。外部研修にも積極的に参加できる機会を提供している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型サービス連絡協議会にしており、会の研修や集会などにより交流を実践している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人、ご家族から情報収集を行いより良い入居方法を考えている。ご本人ご家族が案して入居頂けるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に家族を含めて担当者会議を行って会議にて困りごとや要望をお聞きしている。入所後もいつでも面会できる機会を作り安心して頂けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前に担当者会議を開催し関係各位と必要なサービスについて話し合い支援を見極めている。入所後も必要であればサービスの変更を行う。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居時の担当者会議にて本人が出来ること、出来ないこと等を話し合いそこで決めたことを入居後実践して頂いている。その後評価をして必要であれば変更している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 必要な時に家族と連絡を取り、情報を共有して共に本人をサポート出来る様な関係づくりに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ渦において玄関先で距離を取って面会を行っている。面会が出来ない場合は写真付きの広報などを送付し出来るだけ関係継続に努めている。 | コロナ禍前は、利用者の友人や近所の方の面会等ができたが、現在は実現出来ない。今後は利用者のニーズを考えながら、家族との関係づくりなど、取り組みが検討されている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が係り合えるように間に入り話題を盛り上げたりレクリエーションや行事に参加出来るように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も退院後の相談や入所の相談、ケアマネの紹介等、出来る会義理の支援が出来るように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の中から思いやりや希望を把握できるように積極的にコミュニケーションを取り定期会議にて話し合いを支援している。 | 日々の観察での1人ひとりの表情や言動の中から、訴えや、その反応が意味する事を把握し、どのようなケアが適切か判断したことを、職員間で共有している。発言のない利用者には、特に観察を重視している。また、発言のできる利用者には、自己決定ができるように誘導し、自信の持てる生活作りを支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 契約前のアセスメントや入居前の担当者会議などから本人、家族から情報をお聞きして職員間で共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の申し送りや申し送りノート、ケース記録を活用して全員が把握出来るように努めている。毎日のバイタル測定で身体の変化の把握にも努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 常に職員間で情報を共有し話し合い意見を反映している。本人や家族の意向を積極的にお聞きして変更が必要な事案があれば直ちに会議を行い満足して頂ける支援が出来る様に努めている。 | 介護計画と各記録の一貫性に乏しく、日々のケアの中で何を目標として、ケアの実践と日々の記録作りに繋げていくのかが見えにくい。また、介護計画の具体的な目標が業務内容になっているため、一貫した評価やモニタリングがわかりにくい状況となっている。 | 介護計画と各種記録が一貫性を持った記録となるように検討することを期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護計画の目標をケース記録に記入しておき実践出来たかをケース記録に記入しその情報を職員間で共有し介護計画の見直しに活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設している小多機の利用者様との合同レクリエーションを行い交流に努めている。コロナ終息後はボランティアとの交流や家族と外出買い物等再開したいと考えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 季節感を感じて頂けるように花や野菜と一緒に育てたり収穫をしてそれを調理して行事などの時に皆様と食べている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 近隣のクリニックの医師が利用者様全員のかかりつけ医となって訪問診療を行っている。急変時はもちろん体調の変化があるときも相談できる。歯科医師も提携している。必要時に往診して頂いている。 | 利用者全員が、協力医の往診を受けている。他科への通院は、原則家族対応となっている。往診時には、職員の看護師が立ち合い、安心出来る医療提供体制となっている。歯科医師とも連携がとれており、必要時に往診をしていただいている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師が週1回来所して体調を確認している24時間体制で緊急時は夜間でも相談することが出来る。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報提供を行いたいいんまに本人と面会をし家族と相談、主治医との連携を行い退院後の対応を決めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に重度化の指針の説明をしている。重度化や終末期についてはその時の状態に応じて本人、家屋、主治医、看護師と連携して納得の出来る終末期を過ごせるように支援している。 | 終末期ケアについては、家族と医師が話し合った結果で家族の意見を尊重して決定して、重度化の指針にそった支援が行われるが、今後は職員のメンタルケアについても検討し、より一層チームによる取り組みを考えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時、急変時の対応が出来る様に基準などを作成し職員が同じ対応が出来るようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練と1回の指南訓練を行っているが昨年も机上訓練や手順確認になってしまったが初期消火、通報、避難訓練、備蓄品確認、停電対策等準備している。 | 併設の小規模多機能型居宅介護事業所と協働して、年2回避難訓練を昼夜を設定し実施している。自然災害(水害)等も想定して行われている。近隣の方の協力は得られていないが、今後はお願いしていく考えである。備蓄は3日分を準備している。 | 災害対策等を踏まえ、地域の方に協力を得るために、今後はどのように投げかける必要があるか検討することを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に目上の方であることを忘れずに個人の性格を把握してプライドを傷つけることなく、尊重する言葉掛けに気を付けている。 | 利用者のプライドを傷つけないように、トイレ誘導は耳元で小声で話しかけたり、汚れてしまった時は他の利用者にわからないように誘導したりしている。利用者の呼名は、必ず「姓」で呼んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | コミュニケーションを通して希望を聞きどのようにしたいか自己決定できるように話をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様一人一人の体調や気分を把握しその日をどのように過ごしたいか本人の希望にそった支援を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時、入浴時に着替える服を選んで頂いている訪問美容等も利用し希望に合う髪型にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節を感じられる食事を心掛けイベントの時など一緒に手作りおやつをお作ったりしている。 | 業者からの宅配(1ヶ月の献立)を利用している。ご飯、みそ汁、ミキサー食、刻み食等は、職員がつくっている。特別メニューは利用者を確認して提供したり、ケーキ作りなどおやつづくりに関わってもらったりしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ひとりひとりの食事形態を把握し食事量を記録しその方が食べやすいように工夫している。水分量記録をし、促しが必要時飲みやすいように工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは毎食後行うように声掛けを実施している。議事の洗浄も毎食後行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 1人ひとりの排泄パターン職員が共有し声かけ誘導しトイレで排せつ出来る様に自尊心も大切にしている。 | 排泄チェック表を活用し、自立支援を行っている。大半の利用者はパットを使用しているため、トイレに誘導しての排泄支援となっている。パンツ使用で自立排泄可能な方もいて、自立排泄実現の支援を行なっている。利用者の状況を早く察知し、ニーズに応えられるよう判断している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排泄チェック表を作成し排泄状況を把握している。水分補給や運動を促し予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週2回を基本に入浴して頂いているが本人の状態により曜日時間を臨機応変に対応している。 | 入浴は週2回で、利用者の希望に出来る範囲内で応えてケアに取り組んでいる。入浴中は職員と昔の話や兄弟などの話をしながら、一対一でのくつろいだ時間を過ごしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 休息や十分な睡眠がとれるよう状況、季節に応じた寝具や音質等快適に眠れる様に環境整備に気を付けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師と連携し効能、副作用について確認できる体制になっている。服薬しづらい方には助言をもらったり飲みやすい工夫をしてもらったりしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 計画作成時に本人の残存機能を検討し共同生活の中で必要な役割を決めて実践して頂いている。ケース記録に実践出来たか記録している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外の外出は控えているがコロナが収束したら以前のように季節にお維持多外出行事を企画したい。現在中庭で花や野菜を育てている。 | 行動制限が緩和されたため、花見を開催する予定である。外出が出来ない時は、中庭の花壇を見たり、プランターで作ったトマトやキュウリを活用しおやつ作りを楽しんだりしていた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物や外出先でお金を使える様にご家族から小口金をお預かりしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば家族、友人への手紙は職員が投函している。家族からの希望でTV電話の操作等行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用部分では温度、換気に気を付け、壁に季節感のある壁紙を毎月貼り植物を置いたりして居心地よく過ごして貰うように工夫している。 | 感染症対策として、換気は利用者の身体状況に配慮しながら工夫して行なっている。加湿器を多めに使用し、湿度調整を行っている。観葉植物や壁紙を用い、季節感が感じられるように工夫をしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファやいすの配置を工夫して気の合った同士で会話が弾むよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が入居前の生活をしていた環境に出来るだけ近づける様に以前使っていたものを持ち込んで燃え合えるよう家族に働きかけている。 | 入居時に以前使用していた枕・布団・タンス・衣類など、馴れ親しんだものを持ってきていただき、自室らしく安心して暮らせる環境作りに取り組んでいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自立した生活が遅れえるように家具の配置、押し車の置き場所にも配慮している。洗剤などの置き場所も検討し安全な環境作りに努めている。 | | |